

## 日蓮聖人の時間論

平井智親

人は時間の中で生きており、時間と共に存在している。その意味で時間とは非常に重要なものといえるだろう。宗教においても時間は重要なものである。日蓮聖人もかなり時間というものを重視されていたと思われる。それは、御遺文の中で何度も時間について述べられていたり、独自の思想である五義判の一つであったり、『撰時抄』等の題号を考えれば理解できるであろう。

それ程関心の高かった日蓮聖人における時間の思想とはどのようなものであろうか。最近の研究を概観してみると、守屋貫教氏は、末法思想の中に日蓮聖人の時間に対する思想を考察し、その特徴として体験を通して二元相即論であると述べている。茂用井教亨氏は、その二元相即論を「宗教的純粹時間」・「宗教的歴史時間」という言葉を使って再定義し、またそのような思想の日蓮聖人における成立過程までも日蓮聖人の体験を通して論求したのである。町田是正氏は、末法思想を通して二元相

即論を追認した。北川前隆氏は、救済の面から論を進め、『法華経』に日蓮聖人の時間に対する思想の根底があることを明らかにしている。山本光明氏は、二元相即論を前提として、同時代の宗教家である道元禪師や親鸞聖人と比較して、日蓮聖人の特色を確認している。

以上研究史を辿って理解できたことは、日蓮聖人の時間に対する思想の特徴は、釈尊の内証の世界たる特別な時間と我々凡夫の日常的時間の二つがまず認められるということである。そしてその二元論が相即の関係にあるということ。また、相即関係は日蓮聖人自身の体験を通して形成されたということである。この三点をいろいろな視点や立場を異にして先師は論じているように思われる。

日蓮聖人の思想は、それぞれが有機的必然的関係をたもっていることは、茂田井氏の指摘の通りである。しかし従来の研究はその視点、特に空間の視点が少し欠けていたように思われる。例えば、五義判の国も空間の範疇であるし、『法華経』の二処三会等空間の重要性は言うまでもない。そのような空間、そればかりではなく他のいろいろな思想との関係における時間に対する思想が今後は研究されるべきではないかと思われるのである。